

令和5年度 福島県教育研究発表会

二次案内

○ 趣 旨

本県学校教育の向上に資するため、県内公立学校教員（幼稚園等、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校）の優れた教育実践・研究及び福島県教育センターの教育実践・研究の成果の発表と意見交換等を行う。

○ 主 催 福島県教育センター

○ 後 援 福島県小学校長会 福島県中学校長会 福島県高等学校長協会

○ 開催日時

令和5年11月22日（水）

9:50~16:20

○ 開催方法

オンライン（Google Workspace）

○ 参加費 無料

○ 定 員 300名

○ 日 程

9:00 9:50 10:05 12:10 13:10 14:30 14:40 16:10 16:20

| | | | | | | | |
|----|------|--------------|------|--------------|----|----|------|
| 準備 | 開会行事 | 研究発表 午前の部 | 昼食休憩 | 研究発表 午後の部 | 休憩 | 講演 | 閉会行事 |
|----|------|--------------|------|--------------|----|----|------|

◎ 参加申込について

■参加対象 県内外の幼稚園等・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校・大学等の教職員・教育委員会関係者

■申込方法

◇下の URL (QR コード→) により表示されますフォームに必要事項を入力してお申し込みください。

<https://forms.gle/BKu6mz49bCi7U3pj9>

◇県内の公立学校教職員（幼稚園等、大学等を除く）の方は FCS アカウントが必要です。FCS アカウントを取得した上で、お申し込みください。

◇申込みが完了した場合には、フォームに入力したメールアドレスに、受付完了の自動送信メールが届きますので、確認をお願いします。

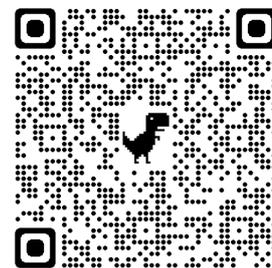
※メールアドレスに誤りがある場合は自動送信されません。自動送信メールが届かない場合は、必ず問い合わせ先までご連絡ください。

■問い合わせ先

福島県教育センター 総合企画チーム

TEL 024-553-3193

Email center-happyo-gr@fcs.ed.jp



■申込締切

令和5年10月24日（火）

◎プログラム

受付

～9:50

・当日の接続方法については、参加手続き完了後にメール等でご案内いたします。

開会行事

9:50～10:00

研究発表 1

10:05～10:40

| 記号 | 研究・実践テーマ、発表者 | キーワード | 発表のここに注目！ |
|----|---|--|--|
| A1 | <p>「学び続ける力」を高める学習指導の在り方（第一年次） —指導方法の工夫・改善を通して—</p> <p>福島県教育センター 調査研究チーム 指導主事 星 克明</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学びの変革 ・学び続ける力 ・協働的な学び ・探究的な学び ・対話活動 | <p>第7次福島県総合教育計画で掲げられた「学びの変革」の実現に向けて、児童生徒の「学び続ける力」という視点からの授業改善の在り方を提案します。</p> <p>一年次である今年度は、児童生徒の実態調査や分析を行い、「学び続ける力」に関する課題を明らかにし、児童生徒の学び続ける姿を支え、協働的な学びや探究的な学びにつなげる効果的な対話活動の在り方やその具体について紹介します。</p> |
| B1 | <p>生きて働く国語の力の育成 —「読めた」「使えた」が自覚できる単元構想と授業づくりを通して—</p> <p>磐梯町立磐梯第二小学校 教諭 小林 亜希</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・活用場面を明確にした単元構想 ・課題意識のもたせ方 ・よりよい対話 ・新たな学びにつながる終末 | <p>子どもたちに学んだことの有用感をもたせながら、日常生活に必要な「生きて働く国語の力」を育んでいきたいと願い研究をスタートしました。</p> <p>実態把握や教材研究、手立ての検討…。教員同士がつながりながら高め合ってきた研究実践と子どもたちの変容について資料を基に紹介します。</p> |
| C1 | <p>目的や場面、状況等に応じて読む力を育成する中学校英語科学習指導の在り方（第二年次） —概要や要点を捉える「読み方」のよさに気付き、価値づける活動を通して—</p> <p>会津坂下町立坂下中学校 福島県教育センター 長期研究員 安藤 武志</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・概要、要点 ・「読み方」 | <p>生徒が目的や場面、状況等に応じて読むことができるような授業改善が求められています。</p> <p>本研究では、学習課題を工夫することにより概要や要点を捉える「読み方」に気付き、価値づける授業実践を行いました。</p> <p>必要な情報を基に概要や要点を捉える力の育成を目指した取り組みを紹介します。</p> |
| D1 | <p>情報活用能力を育む共通教科情報科の授業の在り方 —他領域融合や他教科連携を意識し、「問題の発見・解決」に取り組むプログラミングを通して（第二年次）—</p> <p>福島県教育センター 指導主事 大内 祐司</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・情報活用能力 ・プログラミング指導 ・プログラミング的思考 ・数学B「推測統計」 ・他領域融合・他教科連携 | <p>大学入学共通テスト（令和7年度試験）で初めて実施される「情報I」が話題となる中、「プログラミング」に係る試験が最大の目玉となっています。</p> <p>プログラミング指導は、1年間の教育課程の中で、実習の時間をいかに確保するかが課題です。この課題を解決すべく、本研究2年目における「他領域融合」や「他教科連携」を視野に入れた新たに開発した教材や授業の在り方を提案いたします。</p> |

| 記号 | 研究・実践テーマ、発表者 | キーワード | 発表のここに注目！ |
|----|---|---|---|
| A2 | <p>「光るまなざし 支え合う子」をめざして ーたのしくて、力がつく学び合いの授業ー</p> <p>喜多方市立第一小学校 教諭 滝口 裕</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学び合い ・問い ・子どもの互見授業 | <p>本校では、目指す子どもの姿として「光るまなざし 支え合う子」を据え、研究を進めてきました。今年度は、学び合う姿を「力」にかえる方法を模索し、授業実践を重ねてきました。学び合い方の指導や問いのたせ方等、取組内容を発表します。</p> |
| B2 | <p>マネジメントサイクルを循環させ、生活習慣の改善を図ろうとする児童の育成 ー自分手帳を活用した保健教育と教職員連携による児童の実態に応じた個別保健指導を通してー</p> <p>南会津町立館岩小学校 養護教諭 佐佐木 南</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・マネジメントサイクル ・自分手帳の活用 ・教職員連携による ・個別保健指導 | <p>多様化・複雑化する健康課題が児童を取り巻く中、全国的にも生活習慣の改善が大きな課題になっています。</p> <p>本研究では、児童一人一人が自分の生活の実態を見つめ、生活習慣改善に向けたマネジメントサイクルを循環させていくための、自分手帳を活用した保健教育と教職員連携による児童の実態に応じた個別保健指導の実践を紹介します。</p> |
| C2 | <p>「科学的に考察する力」を育成する中学校理科指導（第二年次） ーより妥当な考察をする際の「考え方」の機能化と顕在化ー</p> <p>白河市立五箇中学校 福島県教育センター長期研究員 和田 陽輔</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・複数の結果 ・多面的に考える ・振り返り | <p>本研究では、複数の結果を基に考えることで、より妥当な考察をすることができる生徒の姿を目指します。</p> <p>その過程で、多面的に考えることのできるよう学習場面を工夫したり、生徒が無意識に働かせている理科の考え方に気付くことができるよう振り返りの場面を設定したりしました。その授業実践を紹介します。</p> |
| D2 | <p>話す英語の流暢さと正確さを向上させる高等学校英語科の指導の工夫 ー半即興的なプレゼンテーションを活用した筆記ランゲージングと相互分析活動を通してー</p> <p>福島県立白河高等学校 教諭 亀山 有歌</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・話すこと [発表] ・話す英語の客観視 ・個人端末の活用 | <p>高校における英語で話す力の育成は、教員、生徒双方にとって大きな課題です。本研究では、個人端末を活用し、自己及び他者との対話活動を通して自分の話している英語を客観視させることで、話す英語の流暢さと正確さの向上を目指した授業実践について紹介します。</p> |



| 記号 | 研究・実践テーマ、発表者 | キーワード | 発表のここに注目！ |
|----|--|---|---|
| A3 | <p>教育の情報化の推進に向けた1人1台端末活用の在り方 ～ICT活用スキルの分析を生かした校内研修を通して～</p> <p>福島県教育センター 情報教育チーム 指導主事 高橋 徹</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末 ・ICT活用スキルの分析を踏まえた校内研修と授業実践 ・ICT活用スキルの向上 | <p>今、教員のICT活用指導力の向上と児童生徒の1人1台端末の利活用の一層の促進が求められています。</p> <p>今年度は、ICT活用スキルの実態と分析を踏まえた、校内研修の活性化に向けた取組と教員、児童生徒のICTを活用した学習場面の実践を紹介します。</p> |
| B3 | <p>高校生の多様な他者と関わる力を育成する指導の在り方 －自己理解の深化と互いに認め合う活動を通して－</p> <p>福島県立福島商業高等学校 教諭 森 若菜</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自他理解 ・スキルの習得と活用 ・多様な価値観の受容 | <p>アンケートから、自分の考えを伝えることを苦手とし、考え方の視野が狭く、他者との関わりに悩んでいる生徒がいることがわかりました。</p> <p>そのため、自他の価値観の違いを理解し、視野を広げた上で自分の考えを伝えることができるようにすることで、多様な他者と関わる力を育成したいと考えました。発表では、段階的な活動を構想した授業実践と生徒の感想を具体的に紹介します。</p> |
| C3 | <p>「未来をひらく石川の子」の育成（第三年次） －夢や希望を追い求め、共に価値観を高めながら自信を育む授業の創造－</p> <p>石川町立石川小学校 主幹教諭 梅田 智史</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学びを問い続ける力 ・納得解・最適解に迫る学び | <p>本校では研究主題にもとづき、国語科、算数科、総合的な学習、特別支援教育の授業実践に取り組んできました。</p> <p>手立てをもった授業の導入、展開、終末を通して、学習課題に対する納得解・最適解に迫りながら、子どもたちが学びを問い続ける授業づくりを提案します。</p> |
| D3 | <p>学習内容と日常生活を関連付けて考える力を育む高等学校理科の授業づくり －SDGsの視点を活用し、学びを自分事化する活動を通して－</p> <p>福島県立二本松実業高等学校 教諭 佐久間 矩子</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活と関連付ける ・SDGsと関連付け、学びを自分事化する | <p>アンケートから、学習内容を日常生活と結び付けて考える生徒が少ないことが明らかになりました。そのため、学習内容を日常生活と関連付けて自分事と捉えさせたいと考え、研究を進めました。</p> <p>自身との関わりが深いSDGsの視点を取り入れた授業実践について紹介します。</p> |



| 記号 | 研究・実践テーマ、発表者 | キーワード | 発表のここに注目！ |
|----|--|--|---|
| A4 | <p>未来社会を切り拓く資質・能力の育成（第一年次） —関わり合い 個を磨き 笑顔かがやく授業の創造—</p> <p>会津若松市立謹教小学校 教諭 中島 純子</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメント ・教科等横断的な学習 ・各学年で中核となる思考スキル | <p>学習の基盤となる資質・能力の育成のために、教科等横断的な学習の充実が求められています。</p> <p>そのために、本校では、学年で中核となる思考スキルの分析や、単元配列表をもとにした単元構想による授業づくりを行ってきました。それらの実践について紹介します。</p> |
| B4 | <p>不登校支援教室「SR（サポートルーム）」の取組</p> <p>福島市立平野中学校 教諭 伊藤 輝</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・不登校問題 ・安心できる室内環境 ・SR担当教員の配置 | <p>本校ではここ数年、不登校生徒数の割合が多く、学校における大きな課題となっています。</p> <p>令和4年度より校務分掌に SR 担当教員を位置づけ、教室で過ごすことが難しい生徒を組織的に支援しています。生徒の一日の様子や取組の成果と課題を紹介します。</p> |
| C4 | <p>学びの連続性を意識し、主体的に課題解決に取り組む児童の育成 —理科における振り返りの充実と活用を目指して—</p> <p>桑折町立伊達崎小学校 教諭 小野 紘子</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を捉えられる導入 ・振り返りの見取り・活用 | <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の一つとして、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにすることが示されています。</p> <p>本研究では、児童が学習課題を捉える導入の工夫と、課題に対する児童の振り返りの具体例を紹介します。</p> |
| D4 | <p>文学的文章を自ら読み深め、解釈したり評価したりする力を育成する高等学校国語科指導の在り方 —生徒の「読む視点」が広がる単元構想の工夫を通して—</p> <p>福島県立会津第二高等学校 教諭 若菜 睦</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・読む視点 ・作品レビュー ・解釈と評価 | <p>新学習指導要領では、作品の内容を捉えるだけでなく、自ら作品の意味を考えたり価値を判断したりする力の育成が求められています。</p> <p>本研究では、文学的文章の「作品レビュー」を作成する言語活動等を通して、一つの作品を多様な「読む視点」を用いて読むことができるような単元を設定しました。生徒が自ら作品を解釈したり評価したりする力を高めることを目指した授業改善の試みを紹介いたします。</p> |



| 記号 | 研究・実践テーマ、発表者 | キーワード | 発表のここに注目！ |
|----|--|---|---|
| B5 | 一人一人の成長を促すためのチーム学校での教育相談 —教育相談コーディネーターを軸とした教育相談の実践を通して— 福島県教育センター 教育相談チーム 指導主事 齊藤 雄策 | <ul style="list-style-type: none"> 先手型の教育相談 チーム学校 教育相談コーディネーター | <p>すべての児童生徒を対象にしたチーム学校での先手型の教育相談の在り方について提案します。</p> <p>教育相談コーディネーターがチームの中心となり、先生方のニーズを把握したり、相談活動の計画・立案などを行ったりして先手型の教育相談を充実させている取組を紹介します。</p> |
| C5 | 自分の考えをもち、ともにかかわり合い、高め合う児童の育成—リーディングスキル（RS）の視点を取り入れた授業の工夫— 塙町立塙小学校 教諭 森 裕美子 | <ul style="list-style-type: none"> リーディングスキル 授業づくりワークシート つなぐ話し合い | <p>「教科書や問題文を正しく読み取れない」「教師の説明が理解できない」などの課題から、読解力の必要性を感じました。</p> <p>本研究では、「授業スタンダード」を土台とし、リーディングスキル（RS）の視点を取り入れた授業の工夫についての試みを紹介します。</p> |
| D5 | 既習の知識及び技能を活用する力を育成する高等学校数学科の指導 —知識及び技能を体系的に整理することを通して— 福島県立相馬総合高等学校 教諭 鈴木 謙太郎 | <ul style="list-style-type: none"> 数学的活動 既習事項の確認 知識及び技能の関連付け 体系的な整理 | <p>数学的に考える資質・能力の育成のために、数学的活動のサイクル化と充実を図ることが求められています。</p> <p>本研究では、知識及び技能を活用する力を育成するために、知識及び技能を体系的に整理することに焦点を当てて、数学的活動の充実を図る授業づくりとその実践について紹介します。</p> |

講演

14:40~16:10

演題 「『メタ認知』に働きかける授業づくり」

講師 岩手大学教育学部 准教授

久坂 哲也（ひささか てつや）氏

閉会行事

16:10~16:20

福島県教育研究発表会

